
俺は友達が少ない。

赤石良哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺は友達が少ない。

【Nコード】

N0273N

【作者名】

赤石良哉

【あらすじ】

聖クロニカ学園には残念な部活があった。

その名も『隣人部』

活動内容は友達を作るのが目的なのだが……

駄弁ったり、ゲームしたり、演劇もどきみたいな事を行ったり、ラジバンダリ(?)と色々方向性を見失いかけている残念な部。果たして部員達は友達を作れるのか!?

残念系青春ラブコメ、友達を募集しつつスタート!

友情>ラブコメ的な感じでやっていきます。(今の予定なら)

原作を読んだ事が無い人も気軽に立ち寄ってくださいね♪

氷室悪魔

教室に座り俺は考察していた。

悲しい事がある。

と俺が嘆いているのも、名前が原因でもあった。

聞いて驚くなよ、俺の名前は氷室悪魔^{ひむろあくま}。

……。

……。

……………。

な？ 俺が両親からどれだけ愛情を注がれていなかったか、名前を見ただけで分かるだろ？ 何で親がこんな名前

をつけたかという両親曰く、俺に『強くなつて欲しいから』

という希望を込めて悪魔という名前をつけたらしい。

そんな両親に息子から一言。

ふざけんじゃねーよ！ お前のせいで俺がどれだけ辛

い目に合ってるか分かるか、あーん！

例えばである。

名前を聞いただけで、皆俺を怖がり構ってくれようともしない。

というか、俺とクラスメイトが話した数など指で数えられる程だ。

そのせいで俺は、グループを組む時に俺だけ仲間外れ

にされたり、他にも休み時間クラスメイトは友達で過ごすのに対し

俺は一人で暇潰しをするのにも一苦労と、物凄く辛い目にあっている。

高二の夏となった今では、クラスメイトから完全無視状態である。

こんな状況で不登校にならないのを、誰か褒めて欲しいものだ。

こほん。

といつても両親は三年前に事故で亡くなりもうこの世にはいないのだが。もちろん両親が、俺にこうなつてほしくて

名前をつけた事がないのはよくわかっているつもり。

（愛情がなかった（？）のにせよ、自分の子供に安易な名前を付ける親は中々いないだろう）

だけど、悪魔とかの名前を俺につけるとしたらまだ太郎の方がましだったような気がする。（全国の太郎さんごめん）

そこところは親と講義したい所なんだけど、まあ両親がこの世にいない今となっては無理なんだけどな。それだけが俺の唯一の心残りでもある。

で、俺が今何をしているかというと、授業が終わり放課後になったので、

友達がいらない俺は速やかに机の中から教科書を取り出し、せっせとエラメルバッグへ押し込んでいた。

バッグを背負い教室から一早く出て廊下を歩く。

俺はなんとなく立ち止まり視線を掲示板に送ると、一枚の紙が目に入り込んできた。

隣人部

とにかく臨機応変に隣人とも善き関係を築くべくからだと心を健全に鍛えたびたちのその日まで、共に思い募らせ励ましあい皆の信望を集める人間になろう

活動場所：礼拝堂談話室2

それは聞いた事も無い、『隣人部』という部活の入部者募集の紙。なんかキリスト教信者が書いたような文面だな。ていうか怪しすぎるだろこの部活！？

というのが、俺の率直な感想である。

……それにしてもこの文少しおかしいな。ひらがなが少しばかり、多いような気がする。

ぼんやりとその紙を見ていた時、
刹那。

俺に神が光臨したのだろうか？ 頭の中に電流が流れたかのような錯覚に襲われた。

今なら地球も我が手元に置く事が出来るぜ！

……まあそう変な物を見る目をせずに聞いてくれ。紙の文面を良く見るんだ。

『と』にかく臨機応変に隣人

と『も』善き関係を築くべく

から『だ』と心を健全にきたえ

たびた『ち』のその日まで

共に思い『募』らせ励ましあい

皆の信望を『集』める人間になろう

斜めから読めば『ともだち募集』という文字と浮かび上がってくるのだ。

ていうか俺って頭柔らかいな、中三の時やった柔らかく頭塾で培った経験が生きているのか？

まあそれはさておき。

悲しいな……。

この文が出てきちゃうって事は俺に友達がいなくて事を認めろ、って言うてるみたいで凄く悲しい、目から汁が。

それにしてもこれはただの偶然なのだろうか。でも偶然にしてはこの文は出来すぎてるような？

これは友達の神様、略称『友神』様が『行くんだ、行くんだジヨー』と、俺に『隣人部』に行け、と語りかけてくれてるのだろうか。

いや友神様がいるとしたら世の中全員の高校生は『孤独』というモノのバッドステータスを背負わなくていい筈だ。

結論。

結局友神様は居らずいない……って話が逸れちゃったな。

これは結局……行くしかねーよな！。

行かないっていうと後悔しそうだし、何よりどんな活動をする部活をする所なのか気になる。

俺はこの『隣人部』の活動場所『礼拝堂談話室』へと歩んでいった。

で、後日談。俺がもし掲示板を見ずに通りすぎていたとしたらまた別の未来があったのだろうか。

それとも、もっと楽しいような出来事が待っていただろうか。

それは俺にも良く分からない。

でもこれだけは言える。

掲示板を見て良かったって。

氷室悪魔（後書き）

僕は友達が少ない

→

作者の言葉です（笑）

最後まで読んでくれて有難うございます。感想をくれたら作者は元氣100%になります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0273n/>

俺は友達が少ない。

2010年10月9日22時56分発行